

2 奈良市の自然について

奈良市の自然について

奈良市内には「春日山原始林」をはじめとする自然豊かな地域があり、特に市内東部に多く存在しています。東部の山林には、コナラやクヌギといった薪や炭になる木が多くある里山林、アカマツ林やスギ・ヒノキの植林が広く分布しており、このような山林はいろいろな生き物のすみかとなっています。しかし、人間の活動により生き物のすみかが減り、数や種が減ってきています。奈良市では、市内の生き物の生息状況を知るために 2020年度（令和2年度）から 2021年度（令和3年度）にかけて6エリア（奈良公園、佐紀、矢田丘陵、大柳生、都介野、西ノ京）、2河川（佐保川、白砂川）において生き物の調査を行いました。

今回の調査では 1917種の生物、うち絶滅危惧種や希少種などの重要種が 123種確認されました。くわしくはホームページをご覧ください。

くわしい調査の結果はこちら→



クロゲンゴロウ（大柳生）

体長2～2.5 cmの大型のゲンゴロウ。背面は光沢がある黒色や濃い緑色をしています。



ミナミメダカ（佐保川など）

流れの緩やかな場所にすむ小さな魚です。生息環境の変化で数が激減し、現在は絶滅危惧種に指定されています。



アオゲラ（都介野）

体長30 cmほどの大型のキツツキの仲間。平地から山地の森にすみ、主に昆虫やクモを食べています。



カキツバタ（佐紀）

美しい紫色の花をつけるアヤメの仲間。湿地に群生し、春ごろに花を咲かせます。



カンサイタンポポ（矢田丘陵など）

在来種のタンポポで、草地や農地など人里近くで見られます。



シュレーゲルアオガエル

緑色のカエルで水田や森林に生息します。「コロロ、コロロ♪」と鳴きます。

ならし しぜん 2 奈良市の自然について

がいらいしゅ

外来種ってなあに？

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生き物のことを「外来種」や「外来生物」といいます。それらは私たちの身近なところにたくさん生息していますが、いま、下記のように外来種が生態系のバランスをくずすなどして大きな問題となっています。

こうした生き物たちは、ペットや観賞用、食用のため・貨物といっしょに知らないうちにつれてきてしまったものまで、さまざまな理由で人によって持ち込まれて問題のある生き物になってしまったものです。外来種の問題について考えてみませんか？

生態系への影響

外来種(もともとその地域にいた生きもの)が食いられるなど自然のバランスがくずれてしまうことがあります。

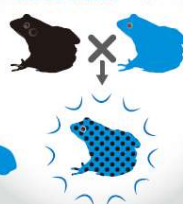
【捕食】外来種をたべる



【競合】外来種の生息・生育環境を奪ってしまったり、餌の奪い合いをする



【遺伝的攪乱】近縁の外来種と交雑して雑種をつくる



農林水産業への影響

野菜や果物、漁業の対象となる生きもの(魚など)を食べたりして、私たちの生活に影響をあたえることがあります。

農林水産物を食べる



畑を踏み荒らす



人の健康への影響

毒を持っていたり、かまれたりすることにより、私たちの健康に危険がおよぶことがあります。

毒を持っていたり危険



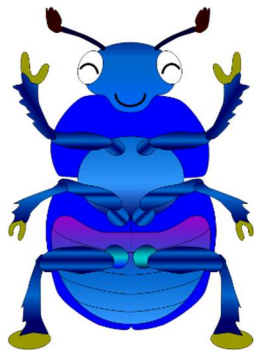
人をかんだり、刺したりする



しゅってん 出典：日本の外来種対策 外来種問題普及啓発パネル(環境省)

2 奈良市の自然について

奈良市の環境キャラクター「ルリくん」



奈良公園には1,000頭をこえる野生の鹿が暮らしていますが、その鹿のフンをコツコツ処理して土にもどしてくれているのがフン虫とよばれるコガネムシの仲間たちです。その代表が紀伊半島各地でしかみられないルリセンチコガネ(オオセンチコガネ(ルリ型))というきれいなコガネムシです。

そこで、奈良市の環境をイメージし、循環型社会を象徴するキャラクターとしてルリセンチコガネの「ルリくん」が誕生しました。

